



みなさんこんにちは！

3月に入りましたね。もう少しで3年生は卒業。1・2年生は進級してクラスが替わり、そして新しい仲間が入ってきますね！3年生は今、慌ただしい日々だと思いますが、精一杯がんばってください。でも息抜きも大切だと思いますので、気分転換に図書館に来て、本でも読んでみてください。心が落ち着く時間を過ごせると思います。

(担当：)

図書委員のオススメ本 テーマ“春”

PART I



『春待ち雑貨店
ぶらたん』
岡崎琢磨
B913 お

みなさんは、人と違う、自分の人生について…などで悩んだことはありますか？今回はそんな悩みを抱えた人を救っていく本「春待ち雑貨店ぶらたん」を紹介します。京都にある小さなハンドメイド雑貨店「ぶらたん」。「ぶらたん」とは、フランス語で春という意味。ここには、恋愛や仕事の悩みを抱えた人々が日々訪れる。店主の北川巴瑠は、そんな悩みを抱える人一人ひとりに寄り添い、進むべき道を照らしていく。実はそんな彼女もまた、ある秘密を抱えて闘っていた。

この本は懸命に生きる人の心に春を呼び込む、癒しの連作ミステリーです。

(担当：)

私と読書 先生



中学生の頃はいわゆる「本の虫」で、毎日図書館に通い、図書委員を務めたこともありましたが、社会人になってからは読書をする機会が減ってしまいましたが、仕事柄、料理のレシピ本や食べ物が出てくる小説などは意識して読むようにしています。

さて、今回は、小中学生の頃に好きだった児童文学の作家さん数人と、その著書を何冊か紹介したいと思います。まずは、中川李枝子。言わずと知れた『ぐりとぐら』などの著者です。特に『ももいろのきりん』が好きでした。次に、古田足日。『おいしいのぼうけん』が有名ですが、私は『モグラ原っぱのなかまたち』という小説がお気に入りでした。最後に、高橋方子。『時計坂の家』がおすすめです。出会いは中学校の学校図書館で、読みやすい文体と不思議な世界観に引き込まれ、大好きな作家さんになりました。初任給で本書を購入し、今でも自室の本棚のちょっといい位置に飾ってあります。

読書は、ちょっとした冒険です。VRや3Dグラフィックのゲームを気軽に楽しめる現代ですが、紙の本をめくり、自分の想像力で物語に没入していく体験は何物にも代えがたいと思っています。

ぜひ、皆さんも図書館に行き、お気に入りの一冊を見つけてください。

(担当：)



『ももいろのきりん』
中川李枝子



『モグラ原っぱのなかまたち』
古田足日



『時計坂の家』
高橋方子



私と読書 先生

小学生の頃、友達の家近くに図書館がありました。その友達と遊ぶ時には、必ず一緒に図書館に行き、本を借りていました。そこで出会ったのは海外の児童文学書で、外国の子どもの言動や風景の違いが面白く、楽しく読んだ覚えがあります。

中学・高校の頃は、ミステリーや、司馬遼太郎の本、また夏目漱石、森鷗外、芥川龍之介、志賀直哉などの明治から昭和初期にかけての文豪の小説を読みました。10代で読む時と、20代で読む時とでは、夏目漱石の『こころ』をはじめ、読後感が違いました。

最近2冊の本を読みました。ページの少ない本を選び、気分よく読めました。

1冊目は、村上春樹の『走ることについて 語るときに 僕の語ること』です。題名の通り、作家自身が走ることにについて書いたものです。小説を書くという作業は、根本的には肉体労働であると認識している作者は、日々様々な場所で走り続けて筋力をつけています。足を痙攣させながらもハワイ、アテネ、ボストン、ニューヨーク、北海道サロマ珊瑚、東京と、マラソンレースに参加し、トライアスロンにも挑戦しています。それは、小説を書くために身体能力を整え、向上させることが目的だそうです。村上春樹の本は好きで、不思議な世界観に魅了されますが、こんなに走る作家とは知りませんでした。

2冊目は、ビギナーズクラシックス『枕草子』です。同じく、兼好法師の『徒然草』もあります。ぜひ楽しく本を読んでみてください

(担当：)

図書委員のオススメ本 テーマ“春”

PART II



『家族で楽しむ
日本の行事・しきたり』
石田 繁美 386 冊

皆さんは「春」と聞いて何を思い浮かべますか？桜？花見？入学式？色々な楽しみや出来事があるのが「春」です。

この本は春の楽しみをもっと色鮮やかに教えてくれます。桜はもちろん、美しい春色の料理やお菓子、昔からの遊びなどいろんな部分に焦点を当てて「春」を教えてください。

(担当：)

春といえばお花ですね！皆さん、花を想像してみてください。桜の花が出てきた人いると思います。桜はそれくらい有名な花です！そんな桜ですが、ものすごく多くの種類があり、咲く時期なども異なります。この本ならきれいな画像付きで桜の木があたかも目の前にあるかのように感じることができます。

桜は人の名前にも多く使われていて歴史や意味が深くとても素敵な名前です！ぜひ読んで桜を感じてください！

(担当：)



『さくら』
野呂希一 748 冊

1月号掲載の 先生の記事に誤りがありました。大変申し訳ありませんでした。

お詫びいたします。裏面に訂正した記事を再掲載いたします。